

若年性認知症とは？

高齢者だけの病気ではなく、若くても発症することがあり、65歳未満で発症する場合、若年性認知症と呼びます。若年性認知症は、50歳代での発症が多く、働き盛りで、経済的に一家の中心であり、また子どもも成人していない場合が多いのが特徴です。血管性認知症が最も多く、アルツハイマー病が多い認知症高齢者とは異なっています。

相談窓口 若年性認知症コールセンター
TEL.0800-100-2707(月～土：10時～15時)

このようなサインを見逃さないで！認知症の可能性あります

・日常生活の場面で

- 大事な約束を忘れる
- 忘れ物が多くなる
- 金銭管理が出来なくなる
- 同じ料理ばかり作るようになる
- 味付けが変わる
- 同じものを買う
- 趣味をしなくなる
- 人前に出ることを嫌がる
- 怒りっぽくなる
- 性格が変わったように感じる

・仕事の場面で

- スケジュール管理が適切にできない
- 仕事で失敗をする
- 複数の作業を同時並行で行えない

・体調

- 頭痛、めまいがする
- イライラする
- 意欲が出ない
- 考えがまとまらない



早期受診・早期診断が重要です。～1人で抱え込まないでまず相談を～

認知症と通常の加齢に伴う物忘れの間のグレーゾーンとしてMCI（軽度認知症）という状態があります。この時点で早期に発見することが大切です。

自分が本当に認知症になることを想像してそれまでに認知症に備えることが最も重要です。

- ・まずは、かかりつけ医にご相談ください。
- ・また専門的な診断が必要な場合、かかりつけ医より認知症疾患医療センターに、鑑別診断の依頼を行います。

診察するとき、このような相談内容を事前に準備してください。

- ①いつ頃から気になりだしたのか？
- ②どんなことが気になっているのか？
- ③いつもと違う、おかしいと思うことは何か？

認知症は誰もがなる可能性のある病気です…。

代表的な「アルツハイマー型認知症」などは、まだはっきりと原因がわかっていないため、誰が認知症になってもおかしくはありません。

早期発見・早期治療が大切です

精神科、脳外科などの医療機関で、MRI、CTなどの検査をすることで認知症の診断を受けることができます。

代表的なものはアルツハイマーや脳血管性の認知症ですが、前頭側頭型、レビー小体型等の認知症なども近年増えてきています。

①アルツハイマー型認知症とは

脳が全体的に萎縮し脳機能が低下します。

②脳血管性認知症とは

脳の血管がつまったり(脳梗塞)、破れたり(脳出血)することで発症します。



健康な脳



アルツハイマー型認知症



脳血管性認知症

また、認知症でなくても脱水、糖尿病の悪化、うつ病、水頭症など、認知症のような症状が出る病気もあります。